

# 意見書

平成 29 年 12 月 25 日  
本獣医生命科学大学  
田中 亜紀(獣医師・博士)

福井県動物取扱業者に関する動画および視察報告書から、シェルターメディスンの専門的知見より意見を申し述べる。

犬の多頭飼育には、最低限必要な飼育環境の基準があり、その基準を満たさない環境で継続的に収容することは、犬に対して不必要な苦痛を強いる状態になる。視察結果および動画記録から、本件は、以下に述べる点において、犬に対して身体的および精神的苦痛を継続的に強いた状態と考える。

## 1. 圧倒的過密状態

- ➡犬が座る、立つ、伸びをする、向きを変えるという行為を体がどこにも触れずに自由に出るスペースがなければならない。
- ➡本件は、多頭飼育状態の飼育環境で、犬が立っている状態で犬同士が密接に触れている状態であり、明らかに過密状態である。

## 2. 隠れる場所、身を隠せる場所がない

- ➡継続的な収容環境には、視覚的刺激(外を見る等)を満たすあるいは避けること(隠れる等)が出来なければならない。
- ➡多頭飼育状態の飼育環境で、犬には他の犬から身を隠す場所がない。

## 3. 排泄場所と休憩場所が不明瞭

- ➡排泄場所と休憩場所と食事の場所は 60 cm 以上離す。
- ➡給餌は別の場所で行っているとのことだが、排泄場所と休憩場所が分けられているかどうかは、写真および動画からは不明瞭であり、犬が十分な休息を取れている環境ではないと考える。

## 4. ケージの積み上げ

- ➡積み上げたケージに犬を収容することは、犬に対してストレスや苦痛の増大につながる。また、換気の悪化や排泄物が上のケージから流れ落ちるなどの劣悪環境にもつながる。

## 5. 床が編み目あるいはメッシュ状

➡犬の爪や四肢に負担がかかるため、床が編み目あるいはメッシュ状の床に常時収容することは望ましくない。

#### 6. 温度管理

➡犬の適正な飼育環境温度は、15.5℃から 26.6℃であるが、適切な温度管理がされていない。

#### 7. 空気の質

➡適切な換気、新鮮な空気(1時間に10~20回の換気)が必要である。

➡高濃度のアンモニアは犬の呼吸器だけでなく、スタッフの健康被害も生じる。

➡アンモニアは10ppm以下が望ましい。

#### 8. 騒音

➡犬の過度の鳴き声は大きさと持続時間とともに犬と人の双方の福祉上の問題である。

#### 9. 犬の飼養に必要な人員と時間

➡1頭あたりの世話に最低限要する時間は15分とされる。しかし、この15分は最低限の給餌や飼育場所の掃除のみに要する時間であり、犬に必要な運動時間や社会化に必要な時間は含まれない。

➡午前7時から翌午前1時まで休憩を一切取らずにスタッフ1人が世話を出来る頭数は最大でも72頭である。

#### 10. 犬の健康状態

➡皮膚疾患、眼疾患、著しい削瘦を呈する犬が確認されることから、適切な獣医療を適切な時期に実施していないネグレクト状態である。

#### 11. 犬の行動学的状態

➡過度の吠えは、旋回運動は、適切な運動の欠如、精神的苦痛、ストレスの兆候であり、大多数の犬が異常行動を示している。

以上の所見により、本件は、現在の人員および飼育環境では動物の健康状態および適正な飼養を維持できる状態ではなく、動物の適正な飼育が損なわれている「多頭飼育崩壊」の状態であることは明らかである。また、著しい多頭飼育崩壊の状態から、動物の健康被害、精神的苦痛が顕著であり、犬に対して不必要な苦痛が強いられる「ネグレクト」の状態である。

以上  
日本獣医生命科学大学  
田中 亜紀  
平成 29 年 12 月 25 日